



岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成 31 年 4 月 19 日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ 団体名 ムササキウチノカイ 牟佐町内会

所在地

連絡先

代表者役職・氏名 会長 田 尻 祐 二

<p>実施分野</p>	<p>(該当の分野を○で囲んでください) <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決 <input type="radio"/> イ 地域課題掘り起し <input type="radio"/> ウ 地域計画づくり <input type="radio"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり <input type="radio"/> オ その他</p>
<p>事業名</p>	<p>「産地牟佐」にこだわった地域活性化</p>
<p>事業実施区域 (小学校区)</p>	<p>牟佐町内会 (牧石学区)</p>
<p>① 事業実施内容</p>	<p>当初「産地牟佐」として活用できたのは、①シシ肉②イノシシと鹿の皮革③川ガニ④日本蜜蜂のはちみつであった。多様な団体の皆さんとの協働により、豊かな自然と、その恵みを地域住民や子ども達に伝えていくためのイベントを開催し、世代を超えて地域住民の皆さんとともに「産地牟佐」の取組みで、我が地域としてのアイデンティティを醸成することができた。</p> <p>具体的には、5月の文化祭会場では、十色に染められた地元産のイノシシや鹿の革を展示や「牟佐」をテーマにした写真展を開催。7月には豪雨災害により、我が町内会も20世帯を超える床上浸水被害が発生。災害の後でもあり、開催が議論されたが、予定通り開催したのが夏休み最初の日曜日。小学生を対象として、「牟佐っ子ども教室」と銘打ち、午前中は、太戸の滝、旭川の渡場、大塚古墳、神社に伝わる文化財など、地域にある自然や歴史の資源を座学で学んだ後、地元産イノシシの革を使っての小銭入れとペントレー作りに挑戦した。昼食は「産地牟佐」イノシシ肉のたっぷり入ったジビエカレーに舌鼓を打った。10月には、岡山刑務所での矯正展で、牟佐町内会として、「産地牟佐」のイノシシ皮革製品の販売に初挑戦し好評を博した。11月には、大人たちのレーザークラフト教室を開催。「産地牟佐」イノシシの革を活用したオリジナルのペンケース作りに挑戦。12月にはもちつき大会を活用し、旬の川ガニ50匹の提供を受け、つみれ汁にしていただき、あわせて、初めてゲットすることができた「産地牟佐」日本蜜蜂のはちみつの味を知ってもらうことができた。</p>
<p>② 解決を目指した課題</p>	<p>昨今、我が地域は、農家が積極的に黄ニラやパクチーを全国的に売り出し、大きな注目を浴びている。一方では、山と川に囲まれた豊かな自然があり、種々の自然資源が存在するが、今日では、ごく一部の人がそれらに関わるばかりで、一般の住民や子供達がそれらに直接触れる機会はほとんどない。その存在も、ましてやそれらが活用できる資源であることも知られていない。日常にある、あるいは身近にあることは知っていても、触れることがないために、その価値を知らない、わからない。しかし、これでは地域にとっては大変に残念なことと言わざるを得ない。</p>

ほぼ、計画した通り形にし、子ども達を含む地域住民と共有できた。子どもたちには、夏休み最初の日曜日に、「工作の宿題としても提出できるものを」とのリクエストに応じて、「小銭入れ」か「ペントレー」を選択してもらったが、①「産地牟佐」である地元の皮革、②イノシシの皮革はそもそも流通が少なく高価、③自分が作製、④自分のサインを焼き入れ等、世界に一つだけの宝物の作品を手にすることができた。

また、今回は座学であったが、住民ボランティアで整備する「太戸の滝」を始めとして、日本遺産に入った大塚古墳、旭川の渡場跡と集落に残る屋号、神社に残る扁額（市重要文化財）など、地域にある自然や歴史の資源を学び合った。折しも、隣の町内となるが警察学校が、一昨年スタートさせた歴史研究のテーマに古代から栄えた牟佐を選んでいただいて、その成果を発表された。

③目的・目標の達成状況

10月、初めての挑戦として、「産地牟佐」のイノシシやシカの皮革製品の販売にチャレンジしたが、製品は試作品のレベルであったが、完売であった。当日は、売り場やのぼり旗を熱心に写真に撮り、時間をかけて製品を見ていた壮年が「町内会がこういうことをやるとは、素晴らしい！」とおっしゃり、製品も購入いただいた。新年度での「産地牟佐塾」の立ち上げに、追い風を送っていただいたと感じている。

図らずも、11月にはマニフェスト大賞優秀成果賞を受賞。前日は東京都内での、優秀賞受賞者によるプレゼン研修大会に参加し、識者から高い評価をいただき特別賞までいただいた。当日は六本木ヒルズでの授賞式に出席。全国に岡山市の区づくり推進事業をPRすることができた。昨年度には、農林水産省が実施した鳥獣被害対策の表彰において、牟佐町内会が利活用部門で、中四国農政局長賞まで受賞することができたが、この度のマニフェスト大賞優秀成果賞も同様に、区づくり推進事業があったからこそであり、この事業に背中を押していただいて取り組んだ結果である。このことは、授賞式前日のプレゼンでも紹介させていただいた。岡山市に心から感謝申し上げたい。課題解決ということにおいては、有害獣被害対策は、全国共通であり深刻である。静岡県裾野市や広島県東広島市等、他都市からの問い合わせが続いた。本年6月には、井原市美星町から東水砂公民館が、我が町内会の取組みが中四国農政局長賞を受賞していることから視察したいとの申し込みをいただいている。

同じ11月に開催した大人のレザークラフト教室には、地域おこし協力隊として北区建部町を拠点に、イノシシの皮革製品づくりに取り組もうとする若い夫妻も参加し、熱心に取材されていた。その後、建部町を拠点とした利活用の取組みを展開されているようであり、少しはお役に立てたのではないかな。

今年度も、参加者の声をお聞きしたが、世代を超えて圧倒的に評価する声をいただいたことは、企画が間違っていなかったと確信している。ただ、盛りだくさんの企画でもあり、動画による記録は撮影したが、編集に至っていない。YouTubeへのアップもできていない。

④企画等の工夫と情報公開

そもそも有害とされ駆除されるイノシシ等の皮が活用されることはなかった。これらを貴重な資源として捉え、町内で捕獲されたイノシシやシカの皮をなめしていただいて、再び町内へ戻していただいた。これらを地元産の革として革製品に加工（ワークショップ）する取組みを、世代を超えて行なった。これらは、過去、山陽新聞にも取材いただき記事にさせていただいた。また、昨年度、中四国農政局長賞を受賞できたことは、大きな追い風となり、取組みの情報が広く伝わっていると思われる。

マニフェスト大賞優秀成果賞の受賞は、マニフェスト研究所のホームページで紹介されており、全国の関係者が施策展開の新たな方向として関心をもっていただけたのは間違いない。届いてくる熱心な問い合わせから、そのことを感じている。

今年はずいぶん自然界のミツバチをゲットしなければならない「産地牟佐」日本ミツバチのはちみつをいただくことができた。諦めないでいたことが実現につながったものと思う。このことにより、自然資源がいかに身近に存在するかを知ることができた。

一連の取組みは、町内会としても、電子町内会ホームページ、フェイスブック、町内会新聞（特集号）、「産地牟佐」ニュースにて情報を発信できた。また、年度末に発行された「協働通信」でも、町内会の取組みとして紹介いただいた。

毎回のイベントでは、参加者アンケートを実施した。アンケートも町内会総会や役員会議にて配布し、地元町内へ報告することができた。

⑤ 次年度計画

町内の農家、猟師とまちづくり協議会等との連携により、

- ・町内での農産物被害対策としての有害獣の駆除活動の紹介・学習
- ・町内で駆除されたイノシシ等のジビエ利用や皮革活用（ワークショップ）等を通して自然資源の大切を学ぶ。

これについては、今回の参加者アンケートからも明確にわかる通り、ワークショップに対する住民の関心度、満足度はとても高かった。次回は、参加の機会拡大に挑戦してみたい。地域外からも聞こえてくるのは、皮革に対する関心の高さである。

- ・町内で駆除された獣皮を活用した加工品づくりに取り組む「産地牟佐塾」（仮称）の立ち上げと「産地牟佐」のブランドづくり

加工の専門家に指導を受けながら、対価を得ることができそうな「産地牟佐」ブランドの製品づくりに取り組む。昨年度の矯正展での試作品販売が好評であったことから、特に関心の高い方々にはチームを作っていただいて、「産地牟佐塾」（仮称）を作り、完成度の高い製品にも挑戦し、「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦してみたい。

ジビエ（シシ肉入りカレー等）も好評であったことから、そのPRのためにも、いわゆる子ども食堂的なもの等をイメージして、もう少し広く提供できないか検討してみたい。

- ・町内での蜂蜜づくりの挑戦・紹介・学習
- ・地元の旭川で獲れた鮎、川ガニ等の紹介・学習・試食
- ・町内にある「太戸の滝」の紹介
- ・町内の自然や暮らしなど地域をテーマにした写真展の開催

⑥ 事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善

自然の恵みは、存在はしているが、①シシ肉②イノシシと鹿の皮革③川ガニ④はちみつなど、いずれも企画して初めて入手できたものであり、日常に住民が当たり前に入手できるものではない。今年度も、それらを計画した通り形にし、子ども達を含む地域住民と共有できた。事業に協力いただいたのは、猟友会駆除班、川猟師、ミツバチ養蜂家、野菜農家、NPO岡山県セルフセンター、一般社団法人やさしい革、子ども会、シニアクラブ牟佐、住民ボランティア等々、正に多様な主体との協働ができたからこそ実現できたもの。そして背中を押してくれたのが、市の区づくり推進事業だ。どれ一つ欠けても、おそらく実現できていない。協力いただいて皆様に心から感謝申し上げたい。この多様な主体の力を借りて、協働することにより、様々なアイデアが出されるし、新しい取り組みにつながっていくものではないかと強く感じている。その過程で、思いもしなかった副産物も時として生み出されるのだと思う。平成30年度も、全く想定していない出来事「マニフェスト大賞優秀成果賞受賞」に恵まれた。さらに、12月に開催した「産地牟佐」のもちつき大会には、ノートルダム清心女子大学生の卒論（有害獣資源活用による地域コミュニティの活性化）のための取材受入れ要請があり、喜んで会場に受け入れ、取材に協力した。その学生が持つ情報の元は、中四国農政局長賞の受賞らしい。このような展開もまったく想像しておらず、喜びに絶えない。これらが、さらに力となって励みになることは間違いない。

課題解決は、一人ではできないことだが、協働の力により可能とすることができることを体験させていただいた。このことは、間違いなく次のステップにつながるものと感じている。

審査会でいただいた点については、①主目的が変わっているのではないかと②対価を得る事業としての可能性への疑問等の声があるが、目的は何も変わっていないし、発展的に新しい取り組みを迫及しているのは、そこに住民の喜びがあるからだ。限られた地域資源であり、本格的な事業になることはあり得ないと考える。それよりも大切なことは、有害獣による被害が減っているのかどうか問われなければならない。ご指摘をいただいたとおり、昨年同様に、たくさんやりたいことを盛り込んだ。地域コミュニティとして取り組んでいるのであり、おのずと限界がある。できるところからやり、少しでも前進させたいと考えている。

○区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容

- ・動画の記録
- ・自然の資源を子どもたちに伝承
- ・衛生面の確実な取り組み

右記のⅠ～Ⅴの該当部分に○を付けてください。なお、Ⅳを選ばれたときは、その理由を下記（ ）内へ記入して下さい。

（理由： ）

助言等の内容について、改善ができましたか。

- Ⅰ できた
- Ⅱ おおむねできた
- Ⅲ 一部できなかった
- Ⅳ まったくできなかった
- Ⅴ 改善意見がなかった

⑧事業実施経過

年 月 日	内 容
平成 30 年 4 月 29 日	「牟佐っ子子ども教室」第 1 回準備会議
平成 30 年 5 月 19 日	第 9 回牟佐ほのぼの文化祭で、「産地牟佐」イノシシの皮革展示および「牟佐」をテーマにした写真展示
平成 30 年 7 月 15 日	「牟佐っ子子ども教室」準備作業
平成 30 年 7 月 18 日	「牟佐っ子子ども教室」準備作業
平成 30 年 7 月 22 日	「牟佐っ子子ども教室」3 部構成で開催
平成 30 年 8 月 22 日	「産地牟佐」日本ミツバチの蜂蜜を収獲(約 30)
平成 30 年 9 月 15 日	「産地牟佐」皮革製品試作販売準備会議
平成 30 年 9 月 22 日	「産地牟佐」皮革製品試作販売準備作業
平成 30 年 9 月 27 日	「産地牟佐」皮革製品試作販売準備作業
平成 30 年 10 月 5 日	「産地牟佐」皮革製品試作販売準備作業
平成 30 年 10 月 9 日	「産地牟佐」皮革製品試作販売準備作業
平成 30 年 10 月 13 日	岡山刑務所矯正展において「産地牟佐」皮革製品販売
平成 30 年 10 月 14 日	岡山刑務所矯正展 2 日目「産地牟佐」皮革製品販売
平成 30 年 10 月 23 日	「産地牟佐」レザークラフト教室準備会議
平成 30 年 11 月 8 日	マニフェスト大賞優秀賞受賞者によるプレゼン研修会(東京)出席
平成 30 年 11 月 9 日	マニフェスト大賞優秀成果賞受賞式(東京)出席
平成 30 年 11 月 11 日	「産地牟佐」レザークラフト教室開催
平成 30 年 11 月 13 日	「産地牟佐」ニュース 11 月号発行
平成 30 年 12 月 9 日	町内会もちつき大会にて、「産地牟佐」の①シシ肉入りシシ汁②川ガニのつみれ汁③はちみつを提供 ノートルダム清心女子大学生の卒論(有害獣資源活用による地域コミュニティの活性化)取材受入れ
平成 31 年 1 月 1 日	町内会新聞(第 32 号)にて、区づくり推進事業特集記事を組み、「産地牟佐」の取組みをについてお知らせ
平成 31 年 1 月 21 日	平成 31 年度区づくり推進事業(継続)に応募
平成 31 年 3 月 2 日	町内会役員会議において「産地牟佐塾」の取組みを紹介
平成 31 年 3 月 7 日	「産地牟佐塾」スタート。レザークラフト加工作業
平成 31 年 3 月 14 日	「産地牟佐塾」レザークラフト加工作業
平成 31 年 3 月 21 日	「産地牟佐塾」レザークラフト加工作業
平成 31 年 3 月 28 日	「産地牟佐塾」レザークラフト加工作業

⑩ 収支決算書

◆収入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	166,000	166,000	
負担金	136,000	101,093	
参加費	30,000	35,300	
寄付、他収入		45,200	「産地牟佐」皮革製品販売
計	332,000	347,593	

◆支出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	30,000	154,129	レザークラフト道具代
②食糧費	21,000	0	
③印刷製本費	20,000	0	
④燃料費		0	
⑤光熱水費		0	
⑥通信運搬費	16,000	8,386	獣皮送料
⑦広告料		3,584	のぼり旗 2 枚
⑧手数料		2,700	振込手数料
⑨使用料・賃借料	15,000	0	
⑩原材料費	40,000	31,584	レザークラフト材料 ジビエ料理材料
⑪委託料	150,000	80,040	なめし加工代 9 枚 皮はぎ代 12 枚
⑫工事請負費		0	
⑬報償費	20,000	66,000	ワークショップ講習料
⑭保険料	20,000	1,170	7/22 ワークショップ参加者
⑮旅費		0	
計	332,000	347,593	